

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「明朗・敬虔・奉仕」のもと地域と双方向的につながりを持ち、グローバル化する社会の中で、主体的に国際社会・地域社会に貢献できる人物を育成する。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と授業改善。新学習指導要領や高大接続改革及びSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取組み推進。
（1）ICT 端末や電子黒板等を有効活用し、生徒の学習に対する意欲・関心や情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。
（2）グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。
（3）生徒の進路実現を支援するための進路講演会及び保護者説明会を充実するなど、生徒一人ひとりが個々に応じた進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導をおこなう。
（4）「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニング、端末を活用した次世代型授業、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。教職員研修や生徒授業アンケート結果の活用などにより組織的な授業力向上をめざす。
（5）「総合的な探究の時間」による3年間を通した系統的な取組みにより、自身の将来に向けた展望を描くとともに、社会に出てからも活用できる知識・技能や興味・関心を身につける。自らが主体性を持ち、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。
（6）新学習指導要領の趣旨をしっかりと踏まえ、観点別学習評価を進める。
（7）図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数が増える取組みを推進する。
（8）専門コース制を生かし、生徒の学力の効果的な向上による第一希望の進路実現を図る。粘り強く進路実現に向かうことにより、現浪合わせての国公立大学合格者を増やし、令和8年度には25名合格を目標とする。（R3 19名、R4 16名 R5 20名 ）
（9）教育産業と連携のもと放課後を活用した講習を発展させ、より専門的な知識の習得に向け主体的に取り組む態度を育成する。
※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価（R3 74.9% R4 80.2% R5 82.0% ）を向上させ、令和8年度には85%とする。
2. 人間力をつけること、規律、安全安心について
（1）道徳教育の推進を図る。人間関係構築の第一歩として、「あいさつ運動」を実施すると共に基本的な生活習慣の確立を図る。規則を守る力、礼儀を身に付ける。
（2）教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切にする」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。
（3）人権問題に関する正しい知識・理解を深め、様々な人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。
（4）体育祭・文化祭等の行事に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに協力し、行事や部活動を通して、生徒に達成感や自尊感情を育む。
※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」に対する肯定的評価（R3 78.1% R4 80.1% R5 82.2% ）を向上させ、令和8年度には85%とする。
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する
（1）OB・OG、豊中市役所の各機関、大学、社会福祉協議会、商工会議所、国際交流協会等の機関との連携と支援を生かした取組みを展開する。
（2）平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を継承し、持続的な交流を行う。平成30年度の大きな自然災害の経験を風化させることなく、「防災教育」の取組みを推進する。
（3）広報活動を積極的に行う。Web Pageを更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画する。
※ 地域連携に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価（ R3 — R4 63.0% R5 58.3% ）を増やし、令和8年度には、70%とする。
（一）は、コロナの影響により評価を実施せず
4. グローバルリーダーの育成
（1）国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
（2）国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
※ 国際交流活動等に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価（R3 — R4 70.0% R5 69.2% ）を増やし、令和8年度には、85%とする。
（一）は、コロナの影響により評価を実施せず
5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化
（1）全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。
（2）教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。
（3）運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
（4）分掌に位置付けられない組織「SPT（Sakura Project Team）」の取組みを推進する。
（5）「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。
（6）働き方改革の継続、大阪府運動部活動、文化部活動等在り方方針等を踏まえる。夏季及び冬期休業中に学校閉庁日の実施。ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。時間外勤務時間月平均45時間未満をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
生徒対象教育自己診断 ・ここ数年順調に上昇している肯定率が多く、多くの項目においてさらに向上した。肯定率の平均は、令和3年度79.3%、令和4年度82.9%、令和5年度が83.2%、そして今年度が85.7%であった。特に、「学校へ行くの	【第一回】＜6月7日開催＞ ・子供もInstagramを利用している。Instagramを見て、下の子も行きたいという意欲がわいてきている。 ・広報も大切だが、生徒一人一人が自分からアップロードしたいと思えることはとて

府立桜塚高等学校

が楽しい」と回答した生徒が 87.2%＜（R5 85.7% R4 83.4% R3 82.9%＞と年々向上していることは、とても嬉しい結果である。 ・授業に関する項目は、引き続き高い肯定率を示した。なかでも「教え方に工夫をしている先生が多い」（85.1%）＜（R5 80.9% R4 80.4%）＞の肯定率が大きく向上した。「生徒のために良い授業をつくろう」という教員の思いが生徒に伝わったことは、とても嬉しいことである。引き続き、生徒がこれから生きていく社会をしっかりと見据え、次世代に必要な学力をつけるための授業改善を組織的に推進していきたい。 ここ数年、極めて高い肯定率を示している「授業では自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」（88.1%）＜（R5 86.9% R4 87.6%）＞、「評価の仕方や基準について、事前に知らされている。」（93.3%）＜（R5 92.2% R4 87.9%）＞、「学習の評価については納得できる。」（91.0%）＜（R5 90.6% R4 89.9%）＞の項目も、さらに高い満足度を示した。 また、他の設問と比べてどちらかというと肯定率が低い、「授業でわからないことについて質問しやすい」（75.4%）＜（R5 72.5% R4 70.1%）＞も徐々に向上してきている。 今後も、組織的な取り組みを通して、授業力を高めていきたい。 ・「先生は協力して生徒指導にあたっている」（90.0%）＜（R5 88.6% R4 87.4%）＞、「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」（84.5%）＜（R5 82.2% R4 80.1%）＞と、生徒指導に関する肯定率は5年連続で向上した。多様化する生徒に対し、日頃から教職員集団が一枚岩となりながら丁寧に指導をする姿や成長を願う思いが生徒に伝わっていることが伺える。今後も担任団を中心に家庭と連携を取りながら、組織的な生徒指導を推進していきたい。 ・ここ数年の重点課題であった「担任の先生以外に相談できる先生がいる」（71.7%）＜（R5 65.7% R4 62.3%）＞が、順調に向上し7割を超えた。副担任や部顧問による積極的な関わりを意識した成果である。SNSを中心としたコミュニケーションが浸透するなか、人間関係が苦手な生徒や社会に上手く対応できない生徒が増加傾向にある。来年度以降も教職員集団が協力し多角的なアプローチによる寄り添いと支援を進めていきたい。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」（92.9%）＜（R5 93.9% R4 93.5%）＞、は、今年度も極めて高い肯定率を示した。HRや探究の時間を活用したキャリア教育の成果と言える。 ・「人権について学ぶ機会がある」（92.2%）＜（R5 88.9% R4 87.4%）＞が、9割を超えた。生徒全てが、安全で安心した学校生活を送ることができる学校であるためには、「自己肯定・他者理解」両面からの人権教育は必要不可欠である。「部落差別問題」などの不易の課題から、「性的マイノリティー」などといった日々情報がリニューアルされるような課題まで、多岐にわたる人権教育をおこなっていくことは高校教育の根幹のひとつである。 ・「先生は、いじめや相談事について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」（89.8%）＜（R5 89.7% R4 85.6%）＞は、昨年度に引き続き高い肯定率を示した。中学時のコロナの影響により精神的な課題を抱える生徒が多く存在する中、安心安全な学校生活が送れる環境づくりは大きな課題である。引き続き、組織対応を軸にしながら、「生徒相談体制」や「いじめ防止に向けた組織力」のアップを図っていききたい。 ・「学校で地震や火災などが起こった場合どう行動したらよいか知らされている」（84.0%）＜（R5 76.6% R4 73.6%）＞の肯定率が大きく向上した。自然災害に対する知識や心構えや緊急時の行動など、自助、共助の観点から命を守る力の育成は、教育活動の大きなミッションである。今後も、防災避難訓練の場はもとより、あらゆる教育の場面において指導を進めていきたい。 ・「学校では挨拶が自然に交わされている」（86.7%）＜（R5 80.3% R4 80.6%）＞が大きく向上した。実際、校内を歩いていると、挨拶をする生徒が多くなっていることを実感する。挨拶は人間関係構築に大きな役割を果たす「コミュニケーションの原点」である。今後も校内に温かな空気が流れるよう、生徒に挨拶の大切さを伝えるとともに教員側からも積極的に挨拶をしていきたい。 ・「学校行事(体育祭・文化祭・修学旅行等)は楽しく行なえるように工夫されている」（88.5%）＜（R5 85.8% R4 85.5%）＞が向上した。活発な行事は本校の特色であり、高校生活の思い出となる大切なものである。 今後も生徒の主体性を大切にし、「自律」と「楽しむこと」のバランスが取れた行事運営を心掛けていきたい。	も良いことだと思う。個人情報の扱いは大変難しいが、魅力を発信する個人アカウントの扱いには配慮する必要がある。 ・部活の先輩を追いかけることなど、個人の繋がりは学校の魅力になっていく。 ・R7年度より入学者選抜のオンライン出願制が開始されることについて、中学校では大混乱している。 ・試験当日のトラブルも心配。私学ではトラブルあった。電車を乗り間違えたり、似た名前の学校へ行ったりしてしまう。中学校としては夏休みや1月に一度公共交通機関を利用して高校へ行くよう指導している。 【第二回】＜10月11日開催＞ ・テレビでもダイジェスト版を見て概要さえ掴めば満足する人が増えてきている。 ・全体に話をしている時は聞かず、後で聞きなおす子どもが増えてきている。人の話は聞かないけれど、書くことはできる。 ・高校の3年間は心身ともに成長する大事な時期である。学年が上がることに成長していることを実感している。 ・コロナ禍の影響で中学校も状況が変わっていて、長期欠席をする生徒も増えている。それを考えると1年生の長期欠席者0人はすごい。 ・私学志向が強まっている。私学専願の志望者は増えてきている。はやく進学先を決めたいという気持ちが大きいのではないか。 ・私学の広報はポスターについて、はやい学校では4月に中学校へ送付してくる。年々ポスターが増えてきているという印象。 ・私立と公立の広報活動は全く違うと感じる。私学は広報の担当が毎週のように中学校を来校する。 【第三回】＜1月31日開催＞ ・地域としても学校の活動を支えていきたい。 ・学校で先生方はよく頑張っている。感謝している。 ・保護者として自分の子供（3年生）を見ていて、様々な困難を自分で乗り越えて成長したことを実感している。先生方は見守り支えてくださった。感謝している。 ・コロナの3年間で、それぞれの学年の生徒がその時期に成長するべきであった段階を欠いている。見守り支える必要がある。 ・中学校では、生徒同士のトラブルについての学校の対応について保護者のクレームが目立つ。従来に比べて低年齢化しているよう感じる。 ・また、中学校ではコロナ3年間の影響なのか、不登校が増えている。
--	--

・昨年度の課題であった国際交流（79.4％）＜R5 69.2％ R4 70.0％＞、地域連携（68.0％）＜R5 58.3％ R4 63.0％＞に関する肯定率が向上した。本校教育活動の大きな特色である交流活動が活発になってきたことはとても嬉しい結果である。

＜今後の課題として＞

部活動に関する満足度（74.8％）＜R5 72.9％ R4 76.5％＞が、昨年度より向上したものの、物足りない感は否めない。残念ながら在学途中に退部をする生徒も少なからず存在する。教員の働き方改革とのバランスもあるが、生徒の活躍を称える場の創出や指導者の活用など工夫をおこない、生徒の活動をサポートしていく必要がある。

保護者対象教育自己診断

・24 項目中 16 項目の肯定率がアップした。また、全設問の肯定率の平均も 83.6％（R5 82.9％ R4 82.7％）に向上した。

・「子どもは桜塚高校に行くのを楽しみにしている」(89.7％)＜R5 83.0％ R4 81.8％＞はここ数年順調に増加している。生徒対象のアンケートでも「学校へ行くのが楽しい」という生徒が年々増加しており、その様子が保護者にも伝わっている。そのことは、「桜塚の教育は生徒や保護者の期待や要望に応えている。」（82.4％）＜R5 78.9％ R4 78.8％＞の肯定率が、アップしていることから伺える。力をつけることが高校教育のミッションであることは言うまでもないが、「安心に通える」「楽しく通える」環境作りは教育の土台であると言える。引き続き、生徒が夢や意欲をもって通うことのできる学校教育を推進していきたい。

・「桜塚高校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている」（86.3％）＜R5 86.4％ R4 85.0％＞、「桜塚高校は、進路に関する情報提供に努力している」（84.4％）＜R5 84.9％ R4 84.3％＞と進路指導（進路関係の情報提供）に対する満足度は概ね安定している。オンラインでの開催（オンデマンドの配信）も含め、進路説明会を丁寧に行う等、進路指導部を中心とした丁寧な取り組みの成果と言える。

・「子どもは文化祭・体育祭等の学校行事に積極的に参加している」（93.6％）＜R5 92.6％ R4 90.5％＞

「子どもの興味関心を引き出す行事や取り組みが行われている」（88.9％）＜R5 86.6％ R4 83.2％＞と、学校行事に関する満足度は極めて高い。行事を楽しむ生徒の様子が保護者に伝わっていることが推察される。

＜今後の課題として＞

・「桜塚高校の施設・設備は学習環境の面で満足できる」（57.9％）＜R5 54.0％ R4 59.4％＞の肯定率が相変わらず低い。特に自由記述ではトイレの改装について要望が多く見られた。学校サイドでの改善は難しい。引き続き、教育庁に現状を伝えていきたい。

教職員対象教育自己診断

母数が少ないため有意差が何ポイントであるかという判断は難しいが、昨年度と比べ（5ポイント以上）大きく増加・減少した項目に着目し総括することとする。

・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」(94.6％）＜R5 89.6％＞ 「年間の学習指導計画について各教科で話し合っている」（78.2％）＜R5 71.2％＞ 「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」（70.9％）＜R5 63.2％＞ など教職員集団の協同体制に関する設問の肯定率が大きく向上した。今年度、「チーム桜塚」をスローガンに掲げ、教職員集団が一枚岩となり校務を推進した結果といえる。多様化する教育課題を教員個人で解決することが困難になっている昨今、教員同士のコミュニケーションは教育活動にとって、なくてはならない大切なものである。引き続き、職員室の活用など、工夫を凝らしながら、組織のチームワークを高める必要がある。

・「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある」（69.1％）＜R5 84.4％＞が大きく低下した。ここ数年本校の特色で会った ICT 教育が府全体で進み始め、大きな特色ではなくなった。普通科の高校は特色づくりが難しい面もあるが、授業力無償化の影響等を考えると「魅力ある学校づくり」は喫緊の課題である。引き続き、伝統を大切にしながら、新しい取り組みにも積極的にチャレンジしていきたい。

・「校則が生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかどうか検討を加えている」（74.6％）＜R5 81.3％＞

の肯定率が大きく低下した。社会背景の変化に伴い、年々生徒・保護者

のニーズの変化、カスタマイズ化が進んでいる。時代の流れに応じた生徒へのアプローチが求められる中、生徒指導の「不易流行」を見極めることは大切なことである。難しい課題ではあるが、改定された生徒指導提要の主旨を含みながら、生徒指導部を軸に、効果的かつ人権を尊重した生徒指導を検討していかなければならない。 ・「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」(92.6%) <R5 84.7%>が大きく向上した。生徒指導部（自治会担当）を中心に丁寧な指導を行っていることの表れである。 ・「生徒自治会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している」(78.2%) <R5 86.4%>が低下したが、昨年度が極めて高かったためであり、8割近い肯定率は決して低い値ではないと考える。生徒の意識や考え方が多様化する中において、全ての生徒のニーズに応じることは難しいが、今後も生徒の主体性を大切にした行事運営を進めていくことが大切である。 ・「本校の校内研修は、質・量ともに充実している」(70.9%) <R5 80.7%>が昨年度から 10 ポイント近く低下した。多忙な中における教員の負担感が影響している部分も少なくない。今後も「効果（満足感） > 負担」が実感できる研修に向け、内容を精選しながら「為になり、今後に生かすことのできる研修」や「自発的な研修」を進めていくことが大切である。 ・「情報提供の手段として学校のホームページ等が活用されている。」(94.4%) <R5 86.2%>が大きく向上した。情報発信のスタイルが年々変わる中、在校生・保護者はもとより、中学生・保護者に向けた発信にもホームページによる情報提供は欠かせない。引き続き効果的な発信を行っていく必要がある。 ・「桜塚高校では生徒同士や教職員相互、生徒と教職員間で挨拶が自然に交わされている。また、外来者に対してもきちんと挨拶ができている。」(85.5%) <R5 71.2%>が向上した。教員相互の信頼関係、教員と生徒の信頼関係、生徒同士の信頼関係が挨拶の根幹である。今後も、教員同士、そして教員から生徒に対し心のこもった挨拶が自然に交わされ、温かい空気が溢れ「生徒の心が育つ」学校であることを願う。 <今後の課題として> ・学校が抱える課題が複雑多様化する中、「オール学校」での課題解決や改革をおこなっていく必要がある。そのためには、教科や分掌を横断した組織力アップに向け、風通しの良い職場環境を整えていくことが必須である。引き続き、運営委員会の場における学年主任と分掌長による情報共有および協力・連携、さらに、首席によるコーディネート機能により、信頼関係に基づいた有機的な組織を構築していきたい。	
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	評価
1 学 ぶ 力 を つ け る	1. 確かな学力の育成と授業改善。	新学習指導要領、高大接続改革を踏まえ、「学びに向かう力・人間性」「基礎学力の定着・活用」をはかる。		
	(1) ノートパソコン等端末活用授業で、意欲・関心や情報活用能力を高める。	(1) タブレットを活用した授業形態に取組む。「調べ学習」、「小テスト」、「プレゼンテーション」といった活動を通して、生徒の主体的かつ協働的な学びを創出する。さらに、教育産業や教員による学習動画を活用することにより、学びなおしや基礎固めのサポートをおこなう。	(1) 生徒向け学校教育自己診断「タブレットを授業・ホームルームで活用する機会がある」 肯定率 95%維持。[97.5%] 教職員向け学校教育自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」 肯定率 100%[98.3%]	(1) 生徒向け学校教育自己診断「ノートパソコンを授業・ホームルームで活用する機会がある」97.6%、教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等の情報機器が授業等で活用されている」100%、共に成果目標を達成した。(○) 今後も端末の効果的な活用に関する研修や授業相互見学を積極的におこない、「双方向的な活用」「協働的な活用」「個別最適な学びに向けた活用」等、さらなるブラッシュアップを進めていきたい。
	(2) 英語の4 技能を高める。	(2) 英語の授業における指導や放課後を活用し外部教育産業と連携した「桜塾」を通して、英検を推奨するとともに、検定合格率を上げる。	(2) 12 月段階の英検 2 級以上 110 名合格、準 2 級 180 名合格。[2 級以上 103 名、準 2 級 174 名]	(2) 12 月段階の英検合格者 2 級以上 123 名、準 2 級 203 名と目標値を上回った。 (◎)
	(3) 生徒の進路実現を支援するため、きめ細かい進路指導をおこなう。	(3) 進路講演会、保護者説明会を充実させる。進路ホームルームを活用し、多様な生徒個々の第 1 希望進路の実現に向け、きめ細かい進路指導をおこなう。	(3) 生徒向け学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」 肯定率 85%維持[90.7%]	(3) 過去に評価が高かった講師を招き、事前打ち合わせをしっかりと行った上で生徒向け進路講演会を 1 年生 9 月、2 年生 11 月に実施。保護者向け講演会は 1 年生 5 月、2 年生 12 月に実施。講演会後のアンケートでは肯定的な回答が多数であった。また、教員研修で好評であった講師を招き、2 年生保護者向け講演会を 12 月に実施した。さらに、全学年生徒を対象に、進学にかかる費用や大学入試の概要、日程等について進路ホームルームを実施した。生徒向け学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」 肯定率は 89.9%と昨年度を上回り、目標を達成した。(○)
	(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、生徒授業アンケートも活用し、授業改善を図る。	(4) ICT 機器の活用や授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。授業力向上等検討委員会構成員に、10 年経験者研修受講者及びアドバンストセミナー受講者も含め効果的にすすめる。教員相互の授業見学や生徒授業アンケートの結果を効果的に活用するためにも、教科で十分な協議ができる時間を確保する。	(4) 生徒向け学校教育自己診断「授業では自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」 肯定率 85%維持[86.9%] 教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」 肯定率 90%以上。[87.9%]	(4) LGH 公開授業、授業相互見学、教科別の授業力向上に向けた研修および自主的な研修、さらに 10 年経験者・初任者研修等も含めた様々な機会を利用して、授業力向上と授業改善に取り組んだ。その結果、生徒向け学校教育自己診断「授業では自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」の肯定率が 88.1%、教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」の肯定率が 90.9%と双方ともに目標を達成した(○)
	(5) 桜塚の総合的な探究の時間をまとめていく。	(5) 地域や企業等との連携や教育産業による分析システムを活用する等、幅広い取組みを通して総合的な探究の時間の充実を図る。	(5) 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」 肯定率 90%維持。[93.5%]	(5) 各学年とも、昨年度の内容を改良して取り組むことができた。外部講師を招いた 3 年生の探究講座は、生徒の 97.2%が肯定的に評価した。生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定率は 92.9%でわずかに昨年を下回ったが、目標とする指標に達することができた。(○)
	(6) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた、観点別学習評価を進める	(6) 観点別評価が導入されるに伴い、生徒に対して評価の観点を明確に示すとともに、適正な評価をおこなう。	(6) 生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に表示されている。」 肯定率 90%維持 [92.2%]	(6) しっかりと申し合わせをおこなったうえ、全教員が学期初めの授業で生徒に対して丁寧な説明を行った。それにより、生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に表示されている。」の肯定率が 93.3%とさらに向上し、目標を上回った。(◎)
	(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数増の取組み推進。	(7) パソコン等の活用を通して図書館利用を促進し、情報活用能力を育成する。	(7) 図書室の利用者数 3,000 名以上[2,065 名]	(7) 今年度は、自習スペースの拡充や充電ステーションの設置を行った結果、昨年度同時期よりも来館者が増えた。昼休みの利用者 3,016 名、放課後の利用者 708 名、合計 3,724 名と目標の人数を上回った。(○)
	(8) 専門コース制を軸に、学力アップを図り、国公立大学や難関大学への合格者を増やす。	(8) 専門コースを生かし、学力の更なる効果的な向上を図るとともに、第 1 希望の進路実現に向けて粘り強く努力をする生徒を育成する。	(8) 国公立大学への合格者 20 名以上[20 名]	(8) 国公立大学への合格者は 8 名であった。(△)
	(9) 放課後を活用した講習を発展させ、専門的知識の習得に主体的に取り組む態度を育成する。	(9) 英語検定合格 に向けた 5 : 30 以降の講習「桜塾」を 2 クール制にするなど、検定合格に向けて効果的な内容に改編し、参加生徒を増やす。	(9) 講習受講者 150 名以上。 [152 名]	(9) 受講スタイルを、英検の試験日に合わせた 2 ターム制に変更して実施した。十分な学習効果を得るための日程や時間設定を心掛けたが、受講者数は 96 名と目標とする人数には届かなかった。来年度は受講しやすい夏季集中講座を実施予定 (△)

府立桜塚高等学校

2 人間力をつける、 規律、安全安心について	2. 人間力をつける (1) 道徳教育の推進。「あいさつ運動」をすると共に遅刻数の減少。規律、礼儀について (2) 教育相談体制の充実。自己肯定感を大切にする。 (3) 人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。 (4) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。	(1) 丁寧で組織的な生活指導により、基本的生活習慣の確立や交通ルールを初めとする社会規範の醸成、学習規律の向上をはかる。また、人間関係構築の基本である挨拶の習慣を身に着けるための取組みを組織的にこなう。 (2) 「生徒一人ひとりを大切にする」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。 (3) 人権 HR や講演会を初めとする様々な場面を通じ、性別、障がい、国籍等による差別、SNSによる人権侵害、同和問題などあらゆる人権問題に関する知識・理解を高める教育を推進する。 (4) 生徒が主体的に運営する部活動や、自治会活動等を創出する。さまざまな活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。	(1) 生徒向け学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」肯定率 83 % 以上。[82.2 %]「学校では挨拶が自然に交わされている。」肯定率 80 % 維持。[80.3 %] (2) 生徒向け学校教育自己診断「担任の先生以外に相談できる先生がいる」肯定率 68 % 以上。[65.7 %] (3) 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定率 85 % 維持。[88.9 %] (4) 教職員向け学校教育自己診断「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」肯定率 90 % 以上。[84.7 %]	(1) 生徒指導部を中心とする粘り強い指導の結果、生徒向け学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」の肯定率は 84.5 % と向上し目標を達成した。(○) また、「学校では挨拶が自然に交わされている。」の肯定率も 86.7 % と大きく向上し目標を上回る結果であった。(◎) (2) 生徒相談・いじめについてのアンケートの実施や、相談窓口の周知等、教育相談体制を充実させた。また S H R 等の担任業務を一部副担任が分担しクラス生徒に関わるようにした。結果、生徒向け学校教育自己診断「担任の先生以外に相談できる先生がいる」の肯定率は 71.7 % となり、目標を達成することができた。(○) (3) 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」の肯定率は 92.2 % と目標を大きく上回った。今後も「部落差別問題」、「障がい者の人権」などの不易の課題から「性的マイノリティ」等、日々情報がリニューアルされるような課題について取り組んでいく。また、人権についての知識だけでなく人間関係を構築するための実践力の育成にも力を注ぎたい。(◎) (4) 教職員向け学校教育自己診断の「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」肯定率は 92.6 % となった。今後も、生徒指導部自治会担当を中心に、生徒が主体的に考え、魅力ある行事を作れるようにしていきたい。(○)
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する	3. 地域の信頼される学校を促進・広報する (1) 豊中市役所等の公的機関、大学等との連携と支援を生かした取組みを展開する。 (2) 岩手県立大槌高等学校との連携事業の継承。「地域と共に」を大切に「防災教育」の取組みを推進する。 (3) Web Page を活用した広報活動を積極的に行う。生徒による更新も推進する。	(1) イベントにクラブが出演するなど、地域との連携を深化する。大学との連携授業を通して生徒の自己実現を支援する。OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。 (2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を継承し、持続的な交流を行う。H30 年度の大きな自然災害の経験を風化させることなく、「地域と共に」を大切に「防災教育」の取組みを推進する。 (3) Web Page の画面を見やすくするとともに、生徒による「部活動・自治会ブログ」の更新を推進し、学校の元気な様子を内外に発信する。	(1) 生徒向け学校教育自己診断肯定率「授業や部活動等で地域の方々と交流する機会がある。」肯定率 65 % 以上[58.3 %] (2) 訪問やオンラインによる年 1 回以上の相互交流を実施。[2 回] (3) 教職員向け学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」肯定率 90 % 以上[86.2 %]	(1) 豊中市等と自治会やクラブ単位での交流を実施した。また、外部講師招聘を通じた他大学との連携を実施した。生徒向け学校教育自己診断「授業や部活動等で地域の方々と交流する機会がある。」肯定率は 68.0 % に向上し、目標を達成した。(○) (2) 両校の教員および生徒会(自治会) 生徒によるオンライン交流を 2 回実施した。さらに、9 月の文化祭では両校の生徒会(自治会) が連携協力し、「さくら協定」に関する防災活動の紹介動画を上映した。(○) (3) 本校の教育活動を積極的にアップするよう心掛けた結果、教職員向け学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」肯定率は 94.4 % と目標を大きく上回ることができた。引き続き、効果的な広報活動を進めていきたい。(◎)
4. グローバルリーダーの育成	4. グローバルリーダー育成 (1) 国際社会で通用する人材の育成を目的とした国際交流を積極的に進める。 (2) コミュニケーション能力の育成に努める。専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。	(1) 生徒への情報提供、ニーズ把握等を積極的におこない、忠南外国語高校との姉妹校協定を生かした取組みを初めとする海外研修・留学(長期・短期)・海外進学を推進する。 (2) 2 年次、3 年次に GS (グローバルスタディー) コースを設置し、より高いレベルの学習にチャレンジできる環境を整える。国公立や難関私学など第 1 志望の進路実現をめざすとともに、将来国際社会で活躍するグローバル人材の育成を図る。	(1) 生徒向け学校教育自己診断「留学生や国際交流等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある」肯定率 75 % 以上。[69.2 %] (2) GS (グローバルスタディー) コース生徒の全国大学共通テスト(英・数・国) 3 教科の全国平均以上	(1) 5 月に韓国の忠南外国語高校・11 月にインドネシアの高校生が来校した。また、韓国や台湾の姉妹校との複数回のオンライン交流を実施。アメリカからの留学生 1 名を受け入れた。3 月末にはニュージーランド語学研修に 24 名参加した。様々な取り組みの結果、生徒向け学校教育自己診断「留学生や国際交流・海外研修等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある。」肯定率は 79.4 % と目標を達成することができた。(○) (2) 今年度から 3 年生の GS (グローバルスタディー) コースを改編し、国公立や難関私学などの進路実現に向け、より高いレベルの学習にチャレンジできる環境を整えた。コース生徒の全国大学共通テスト(英・数・国) 3 教科は国語が全国平均を上回ったが、英語と数学は達することができなかった。(△)

府立桜塚高等学校

5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化	5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化 (1) 全・定併置校の特色を活かした取組み。 (2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。 (3) 運営委員会メンバーを中心に、分掌・教科のセクショナルリズムにとらわれることなく、本校教育活動について教職員が日常的に話し合える雰囲気醸成する。 (4) 分掌に位置付けられない組織（Sakura Project Team）の取組みを推進させる。 (5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。 (6) 働き方改革による、教職員の健康管理を推進する。	(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。 (2) 学習指導要領改訂に伴う教授法や評価法等の改革に対応するため、教科ごとの組織力を高める。さらに、全教職員が教科の枠を超えた広い視野で本校の教育力の向上を図る。 (3) 首席を軸としたミドルアップ的な組織体制を構築し、運営委員会のメンバーが学校全体の立場から意見交換を行うとともに、分掌・学年の連携のもと、本校の課題に対する基本的な方向性を確立する。 (4) 首席を軸に SPT の取組みをさらに機能させ、朝学、国際交流などといった本校の特色、魅力のアップを図る。 (5) 教育課題の変化や多様化に対応することのできる教職員の組織的・継続的な育成に向け、校内研修を充実させる。 (6) 部活動方針に基づく適切な休養日の設定を徹底するとともに、部活動指導における外部指導者の積極的活用、行事の見直し、学年・分掌業務の平準化などの取組みにより、時間外勤務削減をはかる。	(1) 教職員向け学校教育自己診断「全定の教職員は、同じ施設を使用するにあたり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」肯定率 75%維持。[75.4%] (2) 教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率 80%以上。[77.9%] (3) 教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」肯定率 70%以上。[63.2%] (4) 教職員向け学校教育自己診断「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」肯定率 85%維持。[84.4%] (5) 教員向け学校教育自己診断「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」肯定率 80%維持。[80.7%] (6) 月平均残業時間 80 時間以上の教員をなくす。[0名] ストレスチェックの全校平均値 100 以下を維持。[98]	(1) 必要に応じて全定管理職会議および担当者連絡会を開催し、協力関係を構築した。結果、教職員向け学校教育自己診断「全定の教職員は、同じ施設を使用するにあたり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」の肯定率は 89.1%と目標を大きく上回った。(◎) (2) カリキュラム委員会および授業力向上等検討委員会を中心に、全体の動きを確認するとともに教科ごとの組織力をアップし、一枚岩となって教科教育を推進した。結果、教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率は 85.4%と目標を上回った。(◎) (3) 分掌の効率的な運営方法の模索、および業務の平準化について、部長を中心に、協力体制のもと有機的な校務を推進した。また運営委員会の場では、連絡および意見交換を行い、学校運営の基本的な方向性を確認した。結果、教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ有機的に機能している。」の肯定率は 70.9%と目標を達成した。(○) (4) 分掌・学年を中心に特色ある学校づくりに向けた取組みを推進したが、教職員向け学校教育自己診断「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」の肯定率は 69.1%と大幅に低下した。学校の魅力創りは喫緊の課題である。SPT の取組をさらに機能させ、魅力アップを進めていく必要がある。(△) (5) 「保健指導」「人権教育」「進路指導」「授業力向上」「教育相談」など様々な全体研修に加え、自主研修などを実施した。しかし、教職員向け学校教育自己診断「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」の肯定率は 70.9%となり、目標を達成することができなかった。教員の多忙化が、研修に対する負担感に繋がることも推察されるため、今後も「より効果的で負担感の少ない」研修の実施を進めていく必要がある。(△) (6) 進路関係の一部業務を担う等、副担任の協力による担任業務の負担軽減を図った。また、ノークラブデーの確実な実施と、全庁一斉退庁日の推進を行い、部活動指導による超過勤務の削減を推進した。結果、月平均超過勤務 80 時間以上の教員は存在せず、目標を達成することができた。(○) また、ストレスチェックの全校平均値は「95」で、目標である 100 以下を維持することができた。(○) 次年度以降も、業務の平準化を軸に超過勤務の多い教員や高ストレスを抱える教員を無くし、教職員の健康管理を充実していく。
----------------------------	---	--	---	--